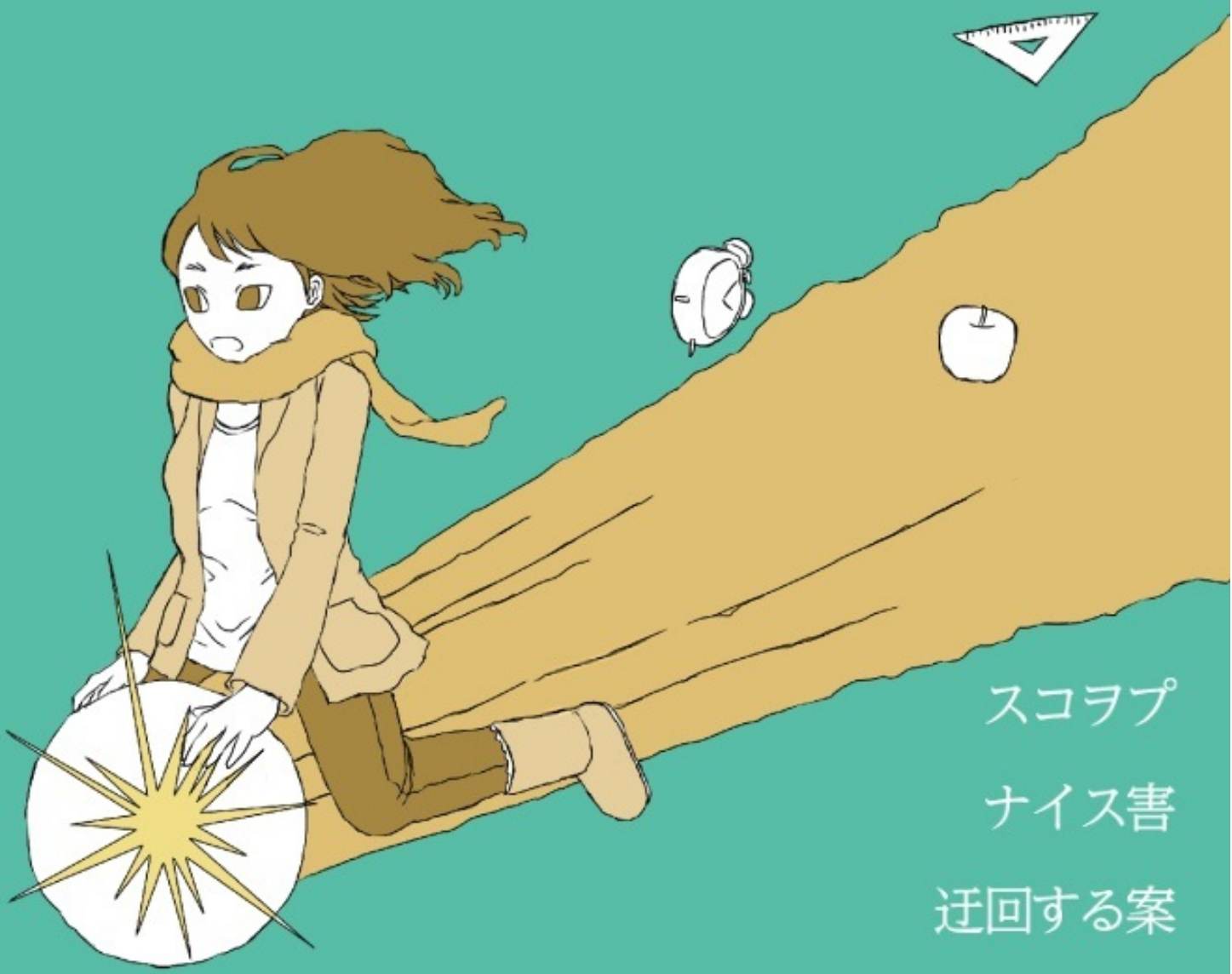
なんたる星

恋をしている

泥ロボ

はだし



スコヲプ

ナイス害

迂回する案

真匿名

②月号

【目次】

連作

「エビ」・・・・・・恋をしている

「路面滑走」・・・・・・泥ロボ

「だいぶ」・・・・・・はだし

「最後の日」・・・・・・スコヲプ

「弱の化身」・・・・・・ナイス害

「き　り　さ　け　！」・・・・・・迂回する案

「畳セレブ」・・・・・・真匿名

競作
「こんな美容室は嫌だ」

なんたる星たち

エビ　　恋をしている

夕暮れの神社にエビがやってくる小説捨てて駅弁を食う
「そなたにはソナタが似合う」と言う友のどんな死因もうつくしくなれ
ヒーローは鬱にならない　外国人観光客の群れについていく
お待ちしておりましたってそういえば予約は君と僕のやくそく
僕だけがいなくなって晴れていて鼻歌が温泉から聞こえる
東京であんまりみないコンビニの灯りで二人は二つのなにか
「さんぷんをすぎてもここにいたい　タロウ」知らない星の知らない絵馬に
真夜中に海鮮丼の具が光る　どうしても言いたいことはない
行きずりのポストに女将と考えたリレー小説落とすグッモニ
呼吸する三番線も涙した八番線にもエビ、参ります

路面滑走

泥ロボ

トンネルを抜けるとそこは雪国に引き返せない人が住む街
風は吹く数十人の幼子がケーキを食べ尽くしてしまうとき
人工の熱波に慣れていないから草かんむりが思い出せない
私にアッパーカットをねじりこむ者がひとりもいない十字路
日曜も働いている人間にポテトを追加していいものか
太陽にぶつかってゆく飛行機には掴むところがありませんでした
右足にアクセルがなくゆっくりと公園前がめちゃめちゃになる
へなちょこな関越道に乗せられてわたし長生きするんだろうな
この雪に覆われ祖母は死にましたマックシェイクの味も知らずに
「東京に最も近いスキー場」迷子情報聞きそこなって

だいぶ　　はだし

おりてくる紐するすると　つかむうで、腕、うで　カチッ、と音してくらやみ
わたし号はあさまではしる　たいいくすわりのままのりこむの、やだよね
まぶしくてあなたかとおもう　てをのばしたらはくねつとう　きたないももいろ
かっこいいかたちのフライドポテトしか生きのこれない世のなかなのね
かんビール、まよなかの市役所、かがみ　つめたい　あなたのうで　あたたかい
あなたがしんだら、あけます　かんづめを　ももやみかんのはいったやつを
いただいたそら豆　そらまめって似てる、さようならに似てるから　よく噛む
目をとじてみえなくなった、みるためにまた目をあける　　かんづめを刺す
バスをまってるのにバスはついたのに　抱きあったりしない、だれも（わたしも）
酸素マスクをはぎとったら笹のにおいがした、しちがつだったらいいな

最後の日

スコラプ

東から朝日に乗って向かうから新宿駅で待ち合わせしよう
ライナーの軌道を描くように生く人を眺めるターミナル駅
今日ここに来れない人は死んだ人、感謝をします　生きているけど
場を繋ぐだけの言葉はからまわりロールケーキは砂のかたまり
悲しみも楽しい気持ちも終わるから骨も残らぬぐらい祝おう
好きですという思いなど言う暇も持てないままに運ぶスプーン
砲弾をトマトに替えた映像を見る目の前に盛られるトマト
あいうえおかきくけ言葉が死んでいく悲鳴ふたつが重なり和音
さようならすずらん通り商店街　南瓜を買ったことがないまま
環状線　軌道の上を笹舟が流れていたら僕の悲しみ

弱(よわ)の化身

ナイス害

神を描く桃色の手は銀に濡れ　この美大生は昼を知らない
口腔へ白い血を吐きおるがずむ　呪いはいつも恋に似ていた
君状の光を散らしアロワナがリボンのように揺れて朽ちてく
泣くと味分からなくなるそんなもの女だけじゃないオレだってなる
熱を帯びドライに愛でるルルの瓶　ビニール詰める指が止まらぬ
しめやかに風を引退する風を捕まえたんだ君に見せたい
入り込む君の悪夢に入り込むなんだ楽園じゃないか今日も
迫真の銀は意外と背が低い　弱の化身は混沌と抱く

きりさけ！　迂回する案

暮らしてるスノウ・ドームの溶媒が重たくなった駅　塾の帰路
出入口ない洞窟は永久(とこしえ)を信じたらしい白湯を持つまま
伝説の剣に供えるシチュールウ（固形）祈りも呪いもない村
さざめきもきらめきもあのゆらめきもマジックカットの影なのかもよ
おととしのウインナーからできた血が溢れるその手、その指で、斬れ
聴こえてたまなこ 知っていたふるえ 嗅覚が云う「視ろ」「視るな」「」
何故きみはそんな笑顔に囲まれて前を向けるの　鞘走る音
刃(やいば)取り落とした手で映写機をふさぐ褐色が青に照らされ
テーブルにずっと置いてた読みかけの本の重さを確かめて朝

畳セレブ

真匿名

ひらがなを思い出せない嫌な朝カーテン開けて足のツボ押す
虎の雨真夏の温度もういいわ川の魚が縦に咲いてる
気がつけば薄暗い色毒の部屋机にサンゴ植えつけてやる
恋だって人並みにする目も洗うミルクココアを祀ったりした
あるはずの指輪は深い溝の底かぶさっている床八畳
わからない取り戻したいわからない鉄の引き金ケーキの匂い

こんな美容室は嫌だ

太い字の看板出して水を飲み今日は黒を白に変えよう　真匿名

月曜に特訓してる新人が裂けるチーズにシャギー入れてる　迂回する案

CDをくれる ぱっさり切り終えるまでの録音(見知らぬ人の)　はだし

かゆいとこきけばいいのに「震源はありますか」って慎重にきく　恋をしている

小刻みに跨ぎフェイント入れてくる 名札に「ヨ一ジウナロ」の文字が　ナイス害

ちょっと切りすぎちゃったから玉手箱じわじわ開けてなんとかしよう　泥ロボ

席立つと皆から掛かる声「かとう」(カットお疲れ様ですの意味)　スコヲプ

あ、なんたる星だろう、と 思ったその日から覚えていない。何もかも――

泥ロボ(@sawayakanai)……旅する人。歌集を持ってふらっとどこかで歌を作っては歌集を買えるお店が少ないと嘆く硬派な人。似合うホシは流れ星

はだし(@sunsetsan0)……謝る人。いつも何かに謝っているが何に誰に謝っているのか多分本人にも分からない不思議な人。似合うホシは星の王子様

スコヲプ(@scope scape)……巡回する人。表紙の絵を描いてくれたと思ったら別アカウントで夜な夜なラーメンパトロールを行う変な人。似合うホシはマチカネキンノホシ

ナイス害(@NiceGuuuy)……楽しむ人。アサラトという楽器をフェスで売って日本の一番になろうとしているビッグな人。似合うホシは星セントルイス

迂回する案(@ukaian)……泳ぐ人。料理をしたり冬なのにプールで泳いだり主婦の鏡のようだけど、言葉の中にも一番潜っている肺の強い人。似合うホシは星野源

真匿名 (@onihime99)……変わる人。「宇宙を見せたい」と言い残し突然消え、「光る」「自然」「狩人」という沢山の名を抱えて戻ってきた風の人。似合うホシは県庁の星

恋をしている(@yayoikenumai)……恋する人。手紙ばかり食べて暮らしていたらいつの間にか素晴らしい人々に囲まれていたラッキーな人。似合うホシはまだ探し中

なんたる星１月号
発行日：２０１４年1月１３日
編集発行人：恋をしている
表紙絵製作：スコヲプ
Twitter：@nantaruhoshi
Mail：nantaruhoshi@excite.co.jp